

ぐりふぁん letter



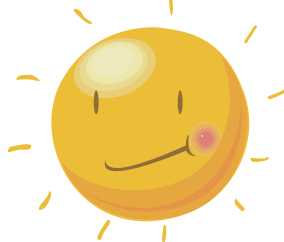
Vol.
36
2018.7

INDEX

- ◆ 吉川商店おひさまプロジェクトが始まります！
総会報告
新理事ご紹介 2
- ◆ 理事退任のごあいさつ
2018年度環境学習
～平和堂財団環境保全活動「夏原グラント」助成を受けて 3
- ◆ 脱原発は、ガス会社で大丈夫？ 脱“石炭”も同時にすすめよう！ 4
- ◆ 持続可能なエネルギー社会をめざして 5
- ◆ テラルネッサンスでんき 電気料金の2%が、NPO応援の資金に 6
- ◆ きょうとグリーンファンド勉強会
「電力会社を変えたら、社会はどう変わる！」に参加して
編集後記 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)





吉川商店おひさまプロジェクトが 始まります！

昨年1年間、様々な施設に対する説明や提案、事前の調整に明け暮れた感がありましたが、この程新しいプロジェクトが始まることになりました。

突然ですが、みなさんは「リユースびん」をご存知でしょうか。一升びん、ビールびん、牛乳びんもまだ一部ですが、健在です。では、自分のくらしの中に「リユースびん」がどのくらいあるか、見まわしてみてください。ビールを飲むとアルミ缶、牛乳は紙パック、一升びんにこだわってお酒や焼酎を飲む人は少数派。「リサイクルすればオーケー」とばかりに、ワンウェイ容器を無頓着に使ってしまっている今の社会の中で踏ん張っている会社が、今回のプロジェクトでご一緒する吉川商店です。

既に自社で130kWの太陽光発電設備を設置しておられますが、私たちのささやかな活動に共感していただき、私たちが社長さんの静かなる闘志を感じ取りました。いわゆる企業さんとは初めてのプロジェクトですが、次の社会につながるプロジェクトになるはずです。
(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



京都の酒どころ伏見で一升びんを中心とするリユースびんを洗浄する工場を営み60年。使い捨て容器が当たり前となり便利な生活を享受できるようになった反面、さまざまな課題が表面化しています。化石燃料に依存する社会はそう長くは続きそうになく、いずれ転換を余儀なくされる時代になるでしょう。京都で回収した一升びんを弊社で洗びんし、再使用した場合の温室効果ガスの排出量は、新びんを使った場合と比べ約9割もの削減効果があり、さらに太陽光発電などを活用すると温室効果ガスの排出は大幅な削減が可能です。容器のなかでRE100%が可能なのはリユースびんだけなのは。皆さんと共に持続可能な社会をつくりましょう。
(株式会社吉川商店 代表取締役 吉川 康彦)

2018年 総 会 報 告

2018年総会は、事務局としては少し気の重いものでした。昨年度、おひさま発電所は設置にまで至らず、単年度で言えば「赤字」だったからです。今更ながら、おひさま発電所設置がきょうとグリーンファンドのメインの事業であることを実感しました。しかし、電力会社との新たな出会いがあり、事務局に新たなメンバーも加わりました。役員改選で、退く理事さんもおられる反面、新しい理事さんの参加もあり、新たな体制で事業を進めていくことになります。

◆新 理 事 ご 紹 介

・・・ 戸 田 英 四 理 事

皆様、この度、中田理事の跡をついで理事に就任しました戸田と申します。日本の温室効果ガス排出量は2015年度には13億2,100万トンになりました。又、日本における温暖化は100年あたりで1.14℃上昇し、異常気象の原因ではといわれています。地球温暖化防止のため、化石燃料から自然エネルギーへのシフトは重要な課題になってきています。自然エネルギー化はこれから益々広まり、進展していくことでしょう。私は「きょうとグリーンファンド」の活動を通じて少しでも多くの太陽光発電所を幼稚園、保育園、介護施設にお届けしたいの思いをもって取り組んでいます。宜しくお願い致します。

・・・ 内 藤 郁 子 理 事

みなさん、はじめまして。このたび理事の一員に加えて頂きました、NPO京都景観フォーラム 理事長内藤郁子と申します。私たちNPO京都景観フォーラムが、昨年の9月より五条の事務所をシェアらせて頂いており、そのご縁でお声かけ頂きました。私たちは、京都の景観まちづくりが地域の自主的なこととして進めていける社会の実現を目指して2009年に発足した団体です。京都市においては厳しい景観政策が施行されて昨年でまる10年になりました。たしかに街並みは整ってきたようにみえます。しかし、景観とは見てくれが美しいことなのではありません。市民の暮らしが表出する姿なのです。暮らしやすい環境が大事だと考えています。そういう意味でグリーンファンドさんからは学ばせて頂くことがたくさんあると思っています。どうぞよろしく願いいたします。

理事 退任のごあいさつ

・・・ 板倉 豊 理事

2004年から理事を、2015年までは理事長も併せて務めてまいりましたが、この度退くことにいたしました。残念ながら、身体が言うことを聞かなくなってきたのです。会議などは元々苦手でしたが、昨今はもっと耐えられなくなってきました。

2004年設置の陵ヶ岡保育園をはじめ数々の施設の点灯式は、それぞれ感慨深いものとして心に残っています。毎年の自然観察会はもう少し続けられそうです。子どもたちのきらきらした目や、わくわくした声で、元気が出るような気がするからです。

・・・ 小山 直美 理事

2017年度で理事を退任することになりました。皆様には お世話になり、ありがとうございました。十分に運営に関わることができなかったことが心残りですが、おひさま発電所の点灯式や環境学習での子どもたちの生き生きとした目が心に残っています。先日、大阪府北部地震が起こりました。国内では福島原発事故はなかったかのように原発の再稼働が進められています。地震国日本で原発に頼らない自然エネルギーを推進していくことは重要です。私も引き続き会員として関わっていきたく思います。今後のきょうとグリーンファンドのますますの発展と、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

・・・ 中田 利享 理事

きょうとグリーンファンドでの活動は、城陽市立久世保育園をはじめ同協会イサク事業所、上鳥羽北部いきいき市民活動センターや世光福祉会「イマジン」のおひさま発電所点灯式に参加させて頂きました。

第21号のおひさま発電所「イマジン」では障がい者、職員と地域の皆さんが力を合わせ、和紙で作った手作りのポンプでお祝いされた場面が印象的でした。一方、陵ヶ岡保育園では、職員の皆さんが保育後に取り組みされた「電気・ガス」、「水」と「ごみ」についての環境学習会が開かれ、知恵を出し合い改善にチャレンジされる機会に立ち会いました。ここではハーフサイズのティッシュBOXと言う当事者でない気付かないアイデアが出され、素晴らしく感じ入りました。これら多くの体験と感動と喜びを頂き、思い出深い6年間でした。末筆ですが会員の皆様のご多幸ときょうとグリーンファンドの益々のご発展を心から願いつつ、ウグイスがさえずる筈の都、長岡京市から、お世話になりありがとうございました。

2018年度 環境学習

～ 平和堂財団環境保全活動 「夏原グラント」助成を受けて～



今年度も昨年に引き続き、平和堂財団環境保全活動助成「夏原グラント」の助成を受けることができました。昨年度と同様に主に「おひさま発電所」のうち環境学習から遠ざかっている施設や、発電所を設置していない施設を対象に積極的に声掛けしていきます。昨年度は、事前に「エコすごろく」を提供して、職員と共に子どもたちにも「エコ」に馴染んでもらって、腹話術を実施したところ、子どもたちの反応がよく、自分たちの日常でのエコをより理解することができました。このことから、今年度は「エコすごろく」の貸し出しを積極的に行います。職員研修として「エコすごろく作りのワークショップ」も企画しています。

きょうとグリーンファンドの環境学習は、若い子どもたちを対象として実施している大切な活動の一つです。さらに内容を充実させながら声掛けし、環境学習に取り組む施設を広げていきたいと思っています。

みなさんも一度、環境学習を機に、元気な子どもたちに会ってみませんか。

◆2018年度 環境学習予定

環境腹話術

8 /23 (木) 10:00～11:00
10/16 (火) 10:15～11:00
11/ 7 (水) 10:00～11:00

自然観察会

10/24 (水) 時間未定
10/31 (水) 9:30～13:00



★参加ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

(きょうとグリーンファンド 山本 照美)

脱原発は、ガス会社で大丈夫？ 脱“石炭”も同時にすすめよう！

認定NPO法人 気候ネットワーク

山本 元

●電力自由化 脱原発でガス会社？

2016年4月に電力小売全面自由化がスタートしました。その際、脱原発のためにはまず「脱・関西電力」をしようとの訴えが多くありました。あれから2年が経過しましたが、現状はどうでしょうか。関電管内では自由化前の顧客の約13%にあたる142万件が新電力へ移行しました。それらの最大の受け皿となったのが大阪ガスです。約61万件が大阪ガスへシフトしました。脱原発や持続可能な地球社会の実現のことを考えると、果たして、本当にこれで良かったのでしょうか？先日、そんなことを考えさせられる報道がありました。



●日本ガス協会会長が「原発の再稼働は必要」と明言

日本ガス協会の会長である広瀬道明氏（東京ガス社長）は、就任の記者会見において「原子力発電所の再稼働は必要だ」と話したと報じられました（2018.6.14日経新聞）。その理由として、2011年の東日本大震災における経験をあげ、「国内の原発が停止し、天然ガス火力発電で代替するため、日本の液化天然ガス輸入量が急増し、価格が急騰したため調達に苦勞したことから、ガス会社にとっても原発は再稼働してもらう必要がある」との見解が示されました（日本ガス協会の副会長は、大阪ガス社長の本荘武宏氏です）。

これは、第5次エネルギー基本計画（案）が最終段階に入ったことから、政府の原発維持方針を後押しすることを意識し、ガス業界を代表する立場として発言したものと受け止められます。これまでのガス会社の「クリーン」なイメージが、変わったという方もいるのではないのでしょうか。

●クリーンなフリして、実は汚いガス会社も

原発に固執する既存の大手電力会社に対する市民の怒りは当然のことです。しかし、その感情をガス会社は巧みに利用し、「原発フリー、クリーンな天然ガス火力と再エネを推進」ととれるようなメッセージを全面に展開し、顧客獲得をしてきました。しかし、先日のガス協会会長の発言を聞き限り、実際には原発推進だったというわけです。しかも、ガス会社の狡猾なイメージ戦略は、これだけに留まりません。これまで「ガスは石炭・石油と比べてクリーン」と宣伝してきているにもかかわらず、裏では、環境負荷が極めて高い、石炭火力発電所も推進しているのです。例えば、大阪ガスはすでに自社の子会社が石炭火力発電所を所有、新たな建設計画も2基あり、うち1基は稼働に入りました。まだ環境アセスメントの手続き段階にある、山口県宇部市に計画されているもの（60万kW×2基）に対して、市民が脱石炭を求める声を上げていくことが重要です。複数の市民団体が、大阪ガスの社長に、石炭火力建設計画からの撤退を要請する手紙を送っています。

もし、脱原発・クリーンなエネルギーのためと思って大阪ガスへパワーシフトしたという方は、大阪ガスからのパワーシフトを検討されてはいかがでしょうか。また、はがきアクション等を通じてガス会社にその声を伝え、脱原発・脱石炭への方針転換を求めています。いかがでしょうか。

一方、東京ガスは、出光興産、九州電力と手を組み、千葉県袖ヶ浦市に合計200万kWもの巨大な石炭火力発電所を建設しようとしています。千葉県沿岸には、すでに多数の火力発電所が立地しており、大気汚染や温排水による海への影響もあることから、さらなる火力発電所の立地に地元住民らは反対の声をあげています。そこで、東京ガスの社長に対して、建設計画を見直すように手紙を送るキャンペーンを実施しています。そのような効果があったのか、東京ガスの広瀬社長は「計画を慎重に検討する」とメディアの取材に答えています。市民が声をあげることが重要です。

●脱原発と脱石炭をセットですすすめよう！

1990年以降、政府は、温暖化対策として原発を低炭素電源とし、設備容量を増やす傍ら、燃料費が安く、高炭素な電源である石炭火力の設備増強を進めてきました。しかし、ご存知の通り、原発は政府の想定通りには増えず、稼働することも殆どありませんでした。むしろ、国全体のエネルギー消費が増える中、バックアップする石炭火力の稼働増により、原発による排出削減を相殺する結果となり、日本の温室効果ガス排出はなかなか減ることはありませんでした。状況が変わったのは2014年です。原発の稼働はゼロでしたが、再生可能エネルギーと省エネの進展により、温室効果ガスの排出が前年比で減少しました。実に皮肉な結果であると共に、私たちが目指す方向も明確になったのではないのでしょうか。

エネルギー政策の転換、パリ協定の目標達成は、一朝一夕には実現することができません。電力の小売全面自由化に続き、都市ガス自由化も始まりました。しかし、これらは変化の入り口です。これからも引き続き、コンセンソの向こう側を見つめ、市民が厳しい目で冷静に見ていくことが重要です。

持続可能なエネルギー社会をめざして

太陽ガス株式会社 及川 斉志

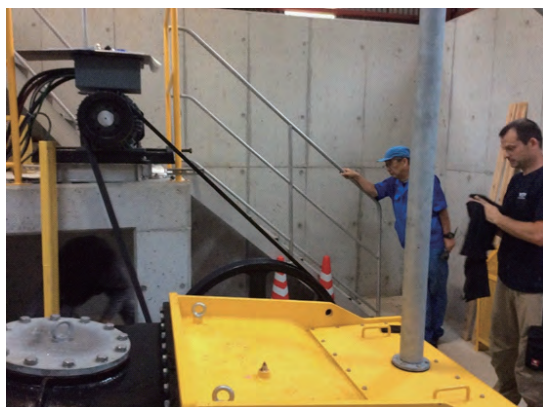
夜の11時。あたりは真っ暗です。先日完成したばかりの水力発電所の扉を開け、中に入りました。6月10日の夜中のことです。明けて11日の0時から営業運転を開始することになっていましたので、気になって見にやってきました。

この水力発電所は、鹿児島県日置市吹上町に流れる永吉川中流にある滝の落差を利用したもので、43kWというかわいらしいものです。永吉川水力発電所、愛称を「水永吉君（みなきちくん）」と言います。よく100kW以上ないと採算性を取るのが難しいといわれる中、こんなに小さい発電所を実際に形にすることができました。私は太陽ガスの社員としてこのプロジェクトを推進してきました。かれこれ5年の歳月を費やし、途中で「あーもうできないかも」と、何度も心が折れそうになりながらも、色々な方々に支えてもらってここまで来ることができました。

太陽ガスは、鹿児島県日置市に本社を置き、この地域に根ざした小さなプロパン会社です。そのガス屋が電気の小売も始めました。2016年のことです。ガスも電気も熱もエネルギーです。ガスと電気を扱うことでよりお客さんの要望にお答えしていきたいと考えています。地産地消の持続可能な電気をお客様に供給するために、2013年から水力発電所を創る試行錯誤をしていました。何もかも初めてでしたので、暗中模索です。日置市を初め、地域の会社、住民も巻き込んで長い道のりを、亀さんのように進んできましたので喜びもひとしおです。

永吉川水力発電所「水永吉君」は、太陽ガスも出資するひおき地域エネルギー株式会社が発電事業者です。この水力発電所で発電した電気は太陽ガスの電源の一部となります。「水永吉君」は安全で、安心で、安定した電気を創ってくれるとっても優秀な子です。太陽ガスは、今後もこういった自然にも人にもやさしいエネルギーを創って、お客様にお届けしたいと考えています。また一般市民の方がお金を出し合って創った太陽光発電所（市民共同発電所）の電気も供給しています。

「あなたの電気代からおひさま発電所が生まれます！」と銘打ってこの太陽ガスグループときょうとグリーンファンドさんが共同プロジェクトをすることになりました。毎日使う電気、その電気代の一部が、おひさま発電所設置のために還元される仕組みです。きょうとグリーンファンドさんが長年取り組まれてきた「おひさま発電所」を「電力の自由化」と組み合わせたいと知恵を絞りました。どんどん自然エネルギーを増やしていきたいという両団体の想いがちょうどぴったりだったのです。必要なエネルギーは、再生可能エネルギーで100%まかなう社会をめざしていきたいですね。プロジェクトの詳細はこれから協議をしていく予定です。



ドイツ製水車（中央下）とドイツ人技術者（右）、日本人技術者（奥）



取水設備、道水管と滝の様子



おひさまでんきプロジェクトイメージ図（詳細未定）

テラ・ルネッサンスでんき

電気料金の2%が、NPO応援の資金に

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス 小田 起世和

認定NPO法人テラ・ルネッサンスは、「すべての生命が安心して生活できる社会（世界平和）の実現」を目指して、地雷除去支援、小型武器の不法取引規制、元子ども兵の社会復帰支援など、「紛争」にまつわる社会課題に取り組んでいます。

そんな私たちが、ハッピーエナジー株式会社（本社:東京都東村山市）に、電気料金の2%が、テラ・ルネッサンスが実施する紛争・地雷被害者などの自立支援に活用される、社会貢献型電気料金プラン「テラ・ルネッサンスでんき」を、2017年12月13日より、東京電力管内を対象として開始してもらうことになりました。

なぜ、国際協力を専門とするNPO（NGO）が、自然エネルギーを主な電源構成とする新電力販売代理店であるハッピーエナジー株式会社と提携するのでしょうか。それは、活動地域である中・東部アフリカでの元子ども兵や紛争被害者の支援活動がきっかけでした。

例えば、現在、ウガンダ北部地域に、約100万人を超える難民が南スーダンから流入し、劣悪な環境で生活を余儀なくされています。しかも、その約60%が、女性と子どもだけで避難してきたと言われています。

テラ・ルネッサンスでは、ウガンダ北部地域で、南スーダン難民への食糧などの緊急支援物資の配布を実施してきました。さらに、南スーダンへの帰還が、治安上の理由で難しいため、難民が、この地域で自立できるように、職業訓練を開始しています。



ウガンダ北部に逃れた、南スーダン難民の子どもたち

●テラ・ルネッサンス 南スーダン難民への支援事業
http://www.terra-r.jp/south_sudan.html

これだけ、多くの難民を生み出した南スーダン紛争。それは、石油資源の利権争いに端を発しているのです。南スーダンが分離独立される以前、スーダンの南北紛争も、同じく石油資源の利権をめぐるものでした。

南スーダン以外にも、第2次世界大戦以降の地域紛争で、もっとも死亡者を出したコンゴ民主共和国。ここでの紛争の主要な原因は、レアメタル（希少資源）や貴金属でした。つまり、石油を含む、エネルギー・鉱物資源によって、私たち先進国の豊かな生活が成り立っていると言えるのです。

そのような紛争の犠牲者である南スーダン難民や、コンゴの元子ども兵などが、困難な状況乗り越え、自立に向けての「支援」は重要です。ただ、一方で、そのような悲しい状況を生み出している紛争そのものを、止めなければならないと、私たちは支援の現場で考えました。

そのような考えから、主にアフリカ地域での紛争の原因となっているエネルギー（地下）資源ではなく、自然エネルギーを普及させることにより、子ども兵や紛争被害者を生み出す紛争の原因を減らすことができたらと願っています。また、電気料金の一部が、紛争で傷ついた人々の自立支援につながることで、人々に紛争について考えるきっかけを提供したいのです。

●「テラ・ルネッサンスでんき」の詳細や、お申込みについては、以下のウェブページをご覧ください。
<http://www.terra-r.jp/energy>

【特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス】

理事長：小川真吾

『すべての生命が安心して生活できる社会の実現』を目的に、2001年に鬼丸昌也によって設立。現在では、カンボジア・ラオスでの地雷や不発弾処理支援、地雷埋設地域の生活再建支援、ウガンダ・コンゴ・ブルンジでの元子ども兵の社会復帰支援を実施。また、日本国内では、平和教育（学校や企業向けの研修）や、岩手県大槌町を中心に、被災者支援活動を展開しています。独立行政法人国際交流基金「地球市民賞」、一般社団法人倫理研究所「地球倫理推進賞」受賞。

【連絡先】 京都市下京区五条高倉角塚町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室
NPO法人テラ・ルネッサンス 公式ウェブサイト：<http://www.terra-r.jp>



きょうとグリーンファンド総会記念勉強会

「電力会社を変えたら、社会はどう変わる！」に参加して

京都景観フォーラム 専務理事 森川 宏剛

昨年の秋から、きょうとグリーンファンドと事務所をシェアさせていただいています。今回、総会及び勉強会に参加させていただきました。勉強会のお話では、再生エネルギーの技術的な進歩は著しく、太陽光発電パネルの価格も私の知っている頃の1/5程度とか。しかし一方で再生エネルギーの普及を後押しするような国の施策は弱く、大手電力会社の振る舞いも普及を阻むようなものだという現状もよく分かりました。

また、景観問題が太陽光パネルの設置には大きなハードルになっていることも分かりました。京都では一部のメーカーが景観条例の規制にあう黒色のパネルを開発していますが、メガソーラーなど大規模なパネルの設置は、地域の景観問題をクリアする必要があります。太陽光発電パネルと景観問題をどう折り合いをつけるか、改めて考えてみようと思いました。

京エコロジーセンター 青山 真弓

一番印象に残っている事は、2019年問題です。「余剰電力買い取り制度」の期間が終了する40万件もの世帯の発電取引が、未だ未定であるということです。次に印象に残っているのは日本の再エネに対するポテンシャルとして一番高いのは風力であるということです。日本は、2030年のエネルギーミックス(電源構成)について、再生可能エネルギーによる発電の構成割合が22~24%となることを目指しているそうで、風力と地熱を3倍も増やす見込みとのこと。講師としてお話をいただきました太陽ガス株式会社の活動にも驚きました。それはガス会社ですが、小さな電力会社をつくり、その収益の50%を社会還元する仕組みを実施しているからです。この仕組みをどんどん広めていきたいと思いました。

また、最後に太陽ガス株式会社が悩んでいるFITに関連する壁もあることを知りました。参加したことで、世界のエネルギー最新情報から日本の再エネ可能性について、詳しく知ることができハッとする内容も多く益々調べたくまりました。

京エコロジーセンター 永田 裕寿

電力小売完全自由化が始まって2年が経ち、電気を利用する消費者が自由に電力会社を選べるようになりましたが、電気料金以外では、何を基準に選べばいいかが分からない消費者が多いのではと思っていました。

今回の勉強会に参加をすることで、見えないところでの地域に根差した努力や、電気を買うことで自然エネルギーのさらなる普及に貢献できることをより詳しく知ることが出来ました。まだまだ限られた選択肢の中でも、持続可能な社会への貢献を日々の暮らしの中でも取り組めると感じました。

また、日本国内でのエネルギー情勢だけでなく、世界のエネルギー情勢を知ることができました。これまでの再生可能エネルギーの利用や発展だけでなく、経済的な視点を取り入れることで、より分かりやすく感じました。日本と世界の国々それぞれの状況の相違は多々あるけれど、市民の力や出来ることから取り組んでいき、持続可能な社会へとなるよう今後も継続し、勉強や活動をしていきたいと思えます。

編集後記

- ・再エネへの関心が、一般には薄くなっているのを感じます。電力会社を選べるようになって、再エネが増えていくことになかなか結びついていかない。「ほんとのところは、なぜ？」と考え続けています。(K.O)
- ・何があるか分からない、最後まで諦めないで頑張るしかない！W杯、どの試合も見ごたえあって…おかげで寝不足気味です。(Y.F)
- ・先日、大阪で地震があって、ますます原子力発電所が不安になりました。(T.Y)
- ・6月18日の地震すごかったですね。私は頭に座布団をかぶる事ぐらいしかできませんでした。今さらながら家具の配置・非常持ち出しの品・備蓄品の見直し等を考えてます。(Y.M)
- ・関電や大阪ガスからHappyEnergyに切り替えなきゃと思っているあなた！早くしないとチョコちゃんに叱られますよ。あなたの「決断」を待っています。(T.H)
- ・環境省がRE100に参加申請するとか…そんな中、原発、石炭火力を推し進める日本、この国はどこに向かっていくのでしょうか？(S.K)

《 ぐりふあん日誌 》

- | | | | |
|------|---|------|---|
| 2/13 | 自然エネルギー学校検討会議／気候ネットワーク | 5/10 | 上鳥羽おひさまウイーク参加／上鳥羽北部いきセン |
| 2/20 | イサクおひさま発電所火災、賠償責任保険更新 | 5/11 | 自然観察会／京都御苑(おおやけこども園) |
| 2/27 | 再生可能エネルギーWG会議／気候ネットワーク | 5/16 | 上鳥羽エコまちプロジェクトワークショップ「エコすごろくを作ってみよう」／上鳥羽小学校 |
| 2/28 | 世光福祉会おひさまプロジェクト打合せ／イマジ | 5/23 | おひさまプロジェクト打ち合わせ／吉川商店 |
| 3/6 | ヒアリング(社会的認証評価について)
NPOセンター／平尾さん | 5/24 | 社会福祉法人神川保育園訪問 |
| 3/11 | バイバイ原発・京都でチラシ配布 | 5/28 | 環境腹話術・おひさまプロジェクト説明
／なかよし保育園 |
| 3/15 | 公開シンポジウム「企業・事業所の電力会社の選び方
～再エネ電力へワシフトしよう～」参加 | 5/30 | 2017年度監査 |
| 3/30 | 平和堂財団環境保全活動助成「第7回夏原 Grant」
助成決定
いこいの場「ほっとハウス」訪問 | 5/31 | 環境腹話術／大宮保育園 |
| 4/3 | 上鳥羽北部いきおひさま発電所火災、賠償責任
保険更新 | 6/2 | 第121回理事会
2018年総会 |
| 4/4 | 自然エネルギー学校検討会議／気候ネットワーク | 6/11 | 環境腹話術／みょうりんえん
再生可能エネルギーWG定例会議／気候ネットワーク
自然エネルギー学校検討会議／気候ネットワーク |
| 4/6 | 社会福祉法人成望館訪問 | 6/13 | おひさまプロジェクト打ち合わせ／吉川商店 |
| 4/7 | 「ふしみ地域電力の可能性を探る」学習会講師
／喫茶うずら | 6/19 | 立命館大学にてゲストスピーカーとして活動紹介 |
| 4/10 | いこいの場「ほっとハウス」訪問 | 6/28 | KGPN(元京都グリーン購入ネットワーク)総会出席 |
| 4/16 | 第120回理事会 | 6/29 | 京都府地球温暖化防止活動推進府民会議
総会出席 |
| 4/20 | 株式会社吉川商店訪問 | 6/29 | 環境腹話術／おおやけこども園 |
| 5/8 | 再生可能エネルギーWG定例会議／気候ネットワーク
自然エネルギー学校検討会議／気候ネットワーク | 6/30 | 自然エネルギー学校・京都2018第1回
／京エコロジーセンター |
| 5/9 | 上鳥羽エコまちプロジェクトワークショップ「エコすごろく
を作ってみよう」／上鳥羽小学校 | 7/3 | 第122回理事会 |

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によって
ささえられています。

おひさま基金へのご寄付は ゆうちよ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2015年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数 70

正会員 42 賛助会員 23

法人会員 5 2018/7 現在



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

